JAPAN HONG KONG

# 飛 FLYING DRAGON 龍

日本香港協会ニュース No.81

## 第12期チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール（CMMS）修了式開催

**日本香港協会全国連合会**

第12期CMMSは2015年4月から9月まで開講され、去る10月1日に香港貿易発展局東京事務所、大阪事務所および九州経済調査協会を会場に、講座と同様にネットで結んで修了式を開催しました。日本香港協会全国連合会木全千裕会長の主催者挨拶、九州日本香港協会石原進会長より共催団体代表挨拶、全国連合会古田茂美事務局長より主催者運営報告の後、各会場で修了証と記念品の授与、皆勤賞記念品授与を行いました。

第12期総括をモデレーター藤澤慶彦氏が、また、モデレーター代表挨拶は関西日本香港協会理事斎藤治、九州日本香港協会副会長佐々木克の二氏が行いました。修了受講者19名は全員がスピーチを行い、続いて全国連合会副会長・NPO法人日本香港協会（東京）理事長の原田光夫氏の閉会の辞をもって今期の講座を終了しました。

CMMSは2003年に開講した日本初の“華人経営塾”として、今後、増大が予想される対中国・アジア依存に備え、華人資本組織とその経営行動様式を学ぶことができる独創的なカリキュラムによるスクールです。CMMSは、日本香港協会全国連合会が主催し、香港大学商学院華人経営研究センターと香港貿易発展局が協力をしています。その最大の特徴は「華人経営」を「国情、儒教、兵法、華人ネットワーク」と分類し、それを「理論」「実践」の両面から分析していることにあります。華人ネットワーク分析は類似の講座にはみられない当講座の最大特徴であり、特に中国分析が飛躍的に向上しています。また、今期では、香港中華総商工会会長であるジョナサン・チョイ氏、および一般社団法人日中経済貿易センター理事長である青木俊一郎氏等をお招きし、特別講義を行いました。

東京会場での修了式

今期第12回のCMMSの総括全文を日本香港協会HPに掲載いたしましたので、どうぞご参照ください。

東京会場修了生

大阪会場修了生

九州会場修了生

2015年12月 発行（禁無断転載）

目　次

第12期チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール（CMMS）修了式開催……1
よく似ている中国人とアメリカ人――彼らのしたたかさに学ぼう……2
「一国二制度」と香港基本法……4
第26回フード・エキスポ、今年も日本旋風巻き起こす……5
「第16回香港フォーラム」&「全国協会交流会」開催報告……6
連合会・各協会便り
東　京：アジア・ユース・オーケストラ（AYO）ツアー25周年／はい、こちらは「日本シンガポール協会」です！……7
関　西：香港ビジネスセミナー開催／香港中秋節パーティー開催／法人会員交流会開催……8
中　京：秋季行事3題……9
九　州：講演会・交流会開催……10
北海道：「香港金融物流セミナーin札幌」を開催……11
宮　城：女性部会が研修会を開催／「アジア・フォーラム2015 in バンコク」に参加／「2015広東語教室」を開講／「FOOD EXPO2015・東日本美味しい魅力展」に宮城県ブースを出展……12
沖　縄：沖縄日本香港協会総会開催／昼食懇談会開催……13
広　島：平成27年度通常総会・交流会……14
新　潟：香港ブックフェア2015出展レポート……15
CONRAD TOKYOからのご案内……16

# よく似ている中国人とアメリカ人――彼らのしたたかさに学ぼう

遠藤　滋

## ◆中国の存在感

本年後半の世界を振り返ると、ギリシャ問題が収まって以降専ら中国に振り回されたように思う。経済の減速、上海株価暴落、株価と人民元相場への一貫性と透明性を欠いた中国政府の介入、9月の軍事パレード、そして米中首脳会談。チャイナリスクについて真剣に考えねばならないという見方が世界に広がった。

中国はこの25年間目覚ましい発展を遂げた。今やGDPで世界の約15%を占める（米国は20%、日本は6%）。人口は20%。因みにIMFの米ドルベース名目GDPで1993年と2014年を比較してみると、世界全体のGDPは3倍、米国は2.5倍、香港は2.4倍になったが日本はたったの4%増。これに対し中国は16.2倍だった。

ついでに香港と中国のGDPを見てみると、1993年中国は香港の5倍だったが、2014年には36倍になっている。

中国の本格的な対外開放は、1992年の鄧小平南巡講話から始まったと言っていい。当時私は香港三井物産で勤務していた。香港は鄧小平の意を汲んで率先して中国に投資し経済発展の基礎を築いた。

## ◆日本は米中の狭間

世界は今、中国が図体が大きくなり転換期を迎えた経済をどうマネージして行くかを見守っている。なかんずく日本にとって中国の動向は重要だ。加えて米中間のやりとりも気になる。米国は今まで軍事的封じ込め(Containment)と経済的協力関係(Engagement)を進める所謂Congagement政策をとってきたが、今後は協調より競争対立に軸足が移って行くように思われる。日本は民主党政権時代の拙劣な外交で米中両国の信頼を失った。日米中三角関係は昔の話になってしまった。日中関係は米中関係の一部とみた方がいい。

日本はもっと米中両国民がどんな人たちなのかを知らなければならない。なかんずく中国について日本人の多くが「同文同種」だと思っている。それ故に中国人がどんな人達なのかを知ろうとしない。そのためビジネスでも政治でもうまく付き合えないでいる。したたかな交渉術への対応も十分に出来ないでいる。また中国人が意外に日本をよく知っていることも知らない。一年前に創刊された「知日」という日本を紹介する月刊誌は既に10万部以上若者を中心に読まれている。

中国パワー溢れる上海の夜（写真：岡村道生）

新しいものを生み出すアメリカの街（写真：小柳淳）

また日本人の多くは米国を「フェアな国」と思っている。私は「フェアであろうとしている国」だと見ている。特に政治となると中国よりむしろ狡さがある。

中国人とアメリカ人は良く似ている。両国に永い間住んだことのある米国籍台湾人の親友も同感だというので、最大の相違点は何か、と尋ねたことがある。しばらく考えて「両国民ともなかなか非を認めない。ただ米国人は証拠が出て来ると謝る。中国人は証拠が出て来ても謝らない」と。両国民とも現実主義者で、自己主張がうまく、したたかで、交渉力に優れている。

私は三井物産勤務時代にアメリカに13年、Greater China（台北、北京、香港）に10年駐在した。2000年に退職後は、香港のCKハチソン社のお手伝いをしている。社会人となって半世紀以上、米中超大国の狭間で仕事をし、生きてきたことになる。以下米中駐在経験に基づいて両国民について考えてみたい。

## ◆国民性の似ている背景

中国もアメリカも国はとにかく広い。そして地平線の向こうには見えない彼方がある。アメリカでは中西部に一年、東部に7年、南部のメンフィスに5年住んだ。メンフィスでは星条旗は余り見かけなかった。娘の私立女学校の各教室には南部連合の旗が飾ってあった。「東部は頭で、中西部は人柄で、南部は腹で勝負する」という言葉を聞いたのもメンフィスだった。アメリカは一つではなかった。

中国も広い。そしてそこには古い歴史もあり、地域によって言葉も違う。各省各地域とも独立志向が強い。

両国民とも国境意識は極めて希薄であり、我々よりはるかに国際人だ。そして彼らが世界の中心だと考える。中国には「中華思想」があり、アメリカは世界が範とすべき自由・平等・人権・民主という普遍の価値観を作り上げたとし、アメリカは違うのだという「アメリカ例外主義」がある。

◆良く似ているしたたかな国民性

・**中国の面子とアメリカのプライド**：中国では厳しい歴史が繰り返され、自分しか頼れないし、自分が自尊ある存在だと思わないと生きて行けない。それ故に時には事実を否定してでも形式で自負を取り戻しているのが、中国の面子だと思う。アメリカは常に正しくフェアだと思われたいし、そうでないとプライドが許さない。面子とプライドには共通するものがある。

・**自己中心主義**：中国は不信社会で、他人を信用しない。アメリカは自由を求めて移民してきた個人の集まりだ。原点は日本の様に「集団」ではなく「個」である。

・**現実主義**：自己中心主義である以上、彼らの物事に対処する態度は現実主義となる。大局や理想を語るが、力点は目先の利益と目的だ。

・**トップダウン**：日本はボトムアップを尊重するが、トップが責任をとって決定して行く。アメリカと中国は両国民とも強いリーダーにはついて行く。

・**リーダーの要件**：アメリカでは頭が良く創造的で説得力に秀でていること。中国では頭が良く記憶力と即断力に優れていること。日本では人格が先ず重要だし、西欧でも見られるが、温かい人間性が求められる。

・**日欧のEvolution（段階的変革）に対しRevolution（大変革）**：西欧も似ているが、日本では地道に発展的に目的に到達しようとする。アメリカは画期的な新しいやり方を先ず模索し、社会を変え新しいマーケットを作ろうとする。中国は目的が決まると早急に達成しようとし、かっては種々世界的発明もあったが、最近は先進国の模倣に走る。中国は意外だが古いものを余り大事にしない。

香港はグローバル拠点（写真：小柳淳）

・**オープンでアバウトでくよくよしない**：アメリカは多民族国家でもともとオープンだ。中国も異民族に何度も統治されてきたので、よそ者に対する違和感は少ない。日本人は皆に行き届いた配慮をしなければならないという善意からだが、几帳面で細かすぎる。細かすぎて問題の核心を忘れ、広い議論が苦手だ。アメリカと中国は両国民とも細かい事に神経は使わず、自利以外は大らかだ。

・**バランス感覚**：中国はかなり右左に揺れるが、自転車のようにバランスをとりながら進んで行く。アメリカも理想と現実、共和党と民主党など、全て議論を尽くし心得た上、多数決に従って前に進む。

・**したたかな交渉力**：日本人は口下手で、自己主張をしない。また直ぐ謝ってしまう。アメリカと中国の両国民は話し上手で、自己主張・自己弁護がうまい。そして決して謝らない。本音と建て前も心得て老獪だ。日本人は場の空気を読み切るまで発言しない人が多い。国際社会では黙って居ては相手を認めることになる。空気を読むより、先ず主張すべきだ。一言でも。

・**アメリカ人は人により、中国人は時により言い方を変える**：アメリカはよそ者同士が作った国だ。よそ者と付き合うには聞こえの好い事を言わざるを得ない。人によって言い方を変える。アメリカのダブルスタンダードだ。中国は陰陽二元論で善悪二元論ではない。陽は陰があるから陰は陽があるから存在する。中国はその時々で都合のいい言い方をする。

◆終わりに

外から見ると日本は確かに立派ないい国だ。しかし余りにも特殊でグローバルでない島国だ。誠実で真面目で正直なだけでは、日本は米中の狭間で右往左往し続けるだろう。孤高でいいと思っていると孤島になってしまう。我々はもっと米中両国民を知り、自己主張をし、彼等のしたたかさを身につけたいものだ。

最後に香港について触れて置きたい。香港は既にグローバル拠点で中国にとっても重要であり、自由な環境、法制度、情報力、金融力、物流力、語学力の点で優位性は続く。私は2047年香港が中国本土に完全復帰した後も、自由闊達な香港は残ると見ているし、そうでなければならない。文明のアジアシフトの流れの中で、香港の有利性と必要性は今後も維持されるだろうし、凛とした香港らしさは持続されるだろうと信じている。

遠藤　滋

ハチソンワンポアジャパン代表取締役CEO、元三井物産専務取締役、著書に『中国人とアメリカ人―自己主張のビジネス術』（文春新書、2015年）など。

# 「一国二制度」と香港基本法

大東文化大学国際関係学部准教授　廣江　倫子

香港特別行政区基本法（香港基本法）は、2015年4月4日にその公布から25年が、7月1日には実施から18年が経過しました。

周知の通り、1984年12月、中英両国政府は香港返還をめぐる中英共同声明に署名します。そこでは、返還後香港は、社会主義制度と政策を実施せず、従来の資本主義制度と生活様式を保持し、それは50年間変わらないという基本方針政策が明らかとなるのですが、この内容を法律として体現したのが香港基本法です。

香港基本法は全文9章、160ケ条と付属文書3件という本格的かつ体系的な内容を持っており、こうした法律はイギリス統治時代にはなく、香港初の本格的憲法と言えます。中国法のなかでは「全国性法律」の一つと位置付けられていますが、香港法にあってはミニ憲法としての地位を持っています。

法律に関して特に注目すべきは、返還以前に用いられていたコモン・ローは引き続き保留される（8条）と規定されることです。裁判所制度の、終審法院が新たに設立されることを除いて、従来の制度が保留される（81条）との規定と併せると、香港法はイギリス統治時代に使われていた法律・裁判制度をすべて保留したものとなっています。

裁判所制度の唯一の変更点が終審法院の設立（82条）であり、イギリス枢密院司法委員会に代わって、香港の最高裁判所となっています。したがって、香港での訴訟は北京の最高人民法院に上訴されることなく、域内で解決されることになります。このように、法律の分野でも「一国二制度」が実施されています。

さて、香港初の本格的憲法には、諸外国の憲法と同じように多くの憲法訴訟がなされてきました。実施から18年が経過した今日、相当数の裁判例の蓄積を見ています。あたかも判例を概観することで香港社会の移り変わりをも垣間見ることができるようです（ちなみに、香港の判例はHong Kong Legal Information Institute〔http://www.hklii.hk/eng/〕にて入手可能です。中英二か国語による判例も増えてきました）。

ところで、先ほど、法律の分野でも「一国二制度」が実施されていて、中国は中国法、香港はコモン・ロー系と別々の法律体系を採ると述べました。ただし、いくら「二制度」といっても、中国という「一国」に含まれる以上、二つの法律体系に香港基本法は唯一の接点を予定しています。それが、香港基本法解釈権の制度です（158条）。もう少し詳しく説明しますと、香港基本法は、社会主義法の流れをくむ中国法とコモン・ローを維持する香港法の違いに配慮して、その解釈権は、中国全国人民代表大会常務委員会（全人代常務委）が第一義的に有するという中国法上の立法解釈体制を原則としながらも、自治範囲内の条文については終審法院に解釈権が与えられるとしています（158条）。つまり、香港基本法の解釈を全人代常務委が行う場合もあるのです。ということは、香港基本法解釈権の行使を通じて、中国法は香港法に影響を及ぼす可能性を持ちます。したがって、香港基本法の解釈権が取り沙汰されるたびに、香港の「高度の自治」が損なわれたのではないかと危惧する論争が起こり、必然的に訴訟は香港法曹を中心に香港内外で論争的なものともなってきました。

こうした判例の変遷を紹介していきましょう。まず、有名な香港居留権事件があります（1999年終審法院判決）。これは全人代常務委による香港基本法解釈権が初めて行使された事例で、158条が予定していた終審法院からではなく、終審法院で敗訴した側の香港政府が解釈を要請して、結果として逆転勝訴（？）するという法律上センセーショナルな事例でした。

ちなみに、香港居留権を規定する24条は、香港社会の一大テーマである移民問題に直結することもあり、全人代常務委の解釈権行使の議論が以降よく出てくるようになっています。例えば、現在の越境妊婦問題の原因となっている「香港で生まれた内地人は香港居留権を持つ」とした庄豊源事件（2001年終審法院判決）には、事態の収束のために全人代常務委解釈を望む声もありますし、フィリピン人メイドが香港居留権を主張した外国人メイド事件（2013年終審法院判決）の審理過程で香港政府は全人代常務委解釈を主張していました。

次に、2017年の行政長官普通選挙問題も、元々は全人代常務委が香港基本法解釈を行い、筋道をつけています。この際も、158条の予定通りではなく、実際の訴訟はなかったにも関わらず、全人代常務委が45条と付属文書1、2の行政長官と立法会の選出方法について解釈を行っています。

最後に、中国の対アフリカ投資にも関わってきて、香港の国際法上の立場が変更されたコンゴ事件（2011年終審法院判決）があります。事件の詳細は省きますが、ここで初めて158条通りに終審法院が全人代常務委に香港基本法解釈を要請し、香港基本法解釈権の行使は条文通りの運用がなされるようになったと言えるでしょう。

ともあれ、解釈権は法制度上「一国二制度」をつなぐ架け橋であり、「高度の自治」の範囲は、解釈権がどのように行使されるかにかかっています。今後も、注意深く見守っていきたいと思います。

廣江　倫子

専門は香港基本法。著書・論文に『香港基本法の研究―「一国両制」における解釈権と裁判管轄を中心に―』（成文堂、2005年）、「香港終審法院による香港基本法解釈要請―コンゴ民主共和国対FG Hemisphere社事件―」大東文化大学紀要第53号（2015年）等。

# 第26回フード・エキスポ、今年も日本旋風巻き起こす

香港貿易発展局東京事務所　コーポレート・コミュニケーション&マーケティング・マネージャー　米岡　哲志

AKBメンバーの吉川七瀬さん（千葉県代表）清水麻璃亜さん（群馬県代表）佐藤栞さん（新潟県代表）が登場すると観客・報道陣は一気に興奮状態に陥った

2015年8月13日、究極の食品総合見本市と言われる『フード・エキスポ』が、湾仔のコンベンション・センターで開催されました。日本からの出展者数は今年も200を優に超え、出展面積は前年の1,953平方メートルから2,187平方メートルへと12%拡大し、過去最大を更新しました。全国40都道府県から出展者が集結したジャパン・パビリオンでは、各地の多彩な特産品ばかりでなく、食器・調理器、観光名所、ゆるキャラなどをアピールするブースが所狭しと並び、JAPANブランドを世界にアピールしました。今回が初出展となった外務省は、「東日本美味しい魅力展」を実施。応援大使に任命されたアイドルグループ「AKB48チーム8」と千葉県船橋市非公認キャラクター「ふなっしー」も会場に駆け付け、東日本8県自慢の県産品と観光地の魅力をPRしました。

今年はまた、昨年に続き林芳正農林水産大臣が会場を訪れ、日本の出展者を激励したほか、沖縄県の翁長雄志知事、岡山県の伊原木隆太知事、岡山県赤磐市の友實武則市長、新潟県魚沼市の大平悦子市長らがトップセールスで地元品を売り込みました。

沖縄県は今年、2013年から2年ぶりで、ANA CARGO、ヤマト運輸と3者共同の沖縄国際物流ハブのブースを開設しました。農林水産物の輸出を成長戦略の一つに掲げる日本政府は、ANA、ヤマト、イオン、全国農協食品と共同で、海外からオンラインで日本の食品が注文できる取り組みを支援してきました。今回の『フード・エキスポ』では、イオン香港が日本食品の販売サイトを立ち上げたことから、香港市民が手軽に日本の「食」を楽しむ動きが、ますます加速する見込みです。

フード・エキスポのパブリックホールはクーポン券を握りしめて品定めする一般来場客で埋め尽くされた

日本の農林水産物・食品の2014年の輸出総額は6,117億円でした。これを国・地域別で見ると、香港は同総額の22%（1,343億円）を占め、トップに立っています。香港そのものは人口約730万人と、埼玉県の人口（約722万人）と同程度にすぎませんが、香港を訪れる外国人訪問者数は年間約6,084万人（2014年実績）にも達します。香港で商品・サービスを出展するだけで、人口13億人の中国、同6億人のアセアン10カ国を筆頭に、世界の広大なマーケットに対してブランド認知を広めることができるのも、『フード・エキスポ』の大きな魅力です。

よく知られている通り、世界で活躍する華僑・華人ビジネスマンには、香港（広東）にルーツを持つ方が多く、香港（広東）人のネットワークにつながれば、文字通り世界各地への切符を手にすることになります。日本からの出展企業の皆様が、香港において信頼できるパートナーを見つけ、“アジア最強の商人”である香港人と二人三脚で海外市場を開拓することを、願ってやみません。

なお、同時開催となったお茶の総合見本市「香港国際茶展」には、六大中国茶（青茶・黒茶・緑茶・紅茶・白茶・黄茶）、紅茶、日本緑茶といった茶葉のほか、茶器、茶藝用品、茶関連用品などが出展され、各ブースで世界のバイヤーと熱のこもった商談が繰り広げられました。日本からは12社が出展し、会場内に設けられた茶室では、お点前が披露され、訪れたバイヤーの目を引いていました。

イオンブースを視察した林農水相は官民共同のウェブサイトに強い関心を示した

香港国際茶展では浴衣姿の出展者が各国のバイヤーに日本茶の楽しみ方をアピール

日本香港協会全国連合会　事務局

## 「第16回香港フォーラム」＆「全国協会交流会」開催報告

### ◆香港フォーラムにて、日本香港協会が7年連続“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞！

去る12月1日・2日、 香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Association Worldwide／本部＝香港貿易発展局内）の世界大会「香港フォーラム」が開催されました。第16回目の開催となった今年は、全世界から400名以上の会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

今年も日本全国からの総参加者数は84名を数え、国別での参加者数が世界一となり、7年連続で“ベスト・アテンダンス・アワード”を受賞しました。

また、各協会の活動に対する受賞式では、世界各地からの多数の応募の中から、関西日本香港協会が、年間を通して行った活動の中から最も成果のあったイベント或いはプロジェクトの内容と成果を評価される「ベスト・イニシェティブ・アワード」を見事受賞しました。年間の活動及び香港協会のネットワークを通し、もっともビジネスを展開させた会員・法人会員が表彰される「サクセス・ストーリー・アワード」には、九州日本香港協会からTRUDIT Hong Kong Company Limited代表取締役社長渡邊大輔氏が選出されました。

12月1日・2日の2日間の会期中にはビジネスセミナー、パネルディスカッション、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。1日目の昼食講演会には、女性リーダー達との昼食懇話会として、国際的に活躍されている女性リーダー達が登壇され、2日目の昼食基調講演では政務長官林鄭月娥（キャリー・ラム）氏が登壇されました。

「ベスト・イニシェティブ・アワード」を受賞する関西日本香港協会

➡「サクセス・ストーリー・アワード」を受賞するTRUDIT Hong Kong Company Limited代表取締社長渡邊大輔氏

⬆ Farewell Dinnerにて ➡

香港貿易発展局ヴィンセント・ロー会長とマーガレット・フォン総裁を囲む日本香港協会会長

最終日のフェアウェル・ディナーでは、九州日本香港協会から里地帰さんが二胡のパフォーマンスを披露され、全世界の参加者から大絶賛を浴びました。また、香港ビジネス協会世界連盟から今年アワード委員会会長として尽力をされた関西日本香港協会戒田真幸氏に感謝状が贈られました。世界中のメンバーが名刺交換をするなど国際的な交流が見られ、メンバー一同楽しいひと時を過ごしました。

### ◆日本香港協会全国の9協会が全て香港に集まりました

香港フォーラムの前日、11月30日にはグランドホール（名爵）にて第8回全国協会交流会が開催されました。交流会に先立って日本香港協会全国連合会総会が開催され、第4回総会として今年一年の活動を振り返るとともに、来年の新たな事業計画が討議されました。

全国交流会では本年の幹事協会である関西日本香港協会の進行のもと、理事・事務局長の戒田真幸氏の司会により、全国連合会会長木全千裕氏の開会挨拶、在香港日本総領事館総領事松田邦紀大使、ならびに日本貿易振興機構（香港）所長伊藤亮一氏、香港日本商工会議所事務局長柳生政一氏の来賓挨拶、香港中華総商会永遠名誉会長ジョナサン・チョイ氏の乾杯の挨拶がありました。全国交流会は、各地の協会の会員の皆様が一堂に会し、年に一度香港で交流ができる機会ということもあり、今年も約100名の方々に参加頂き大盛況の会となりました。

# アジア・ユース・オーケストラ(AYO)ツアー25周年――音楽を通して、アジアをひとつに

AYO日本事務所代表　日本香港協会理事　佐藤　劭

AYOがコンサートツアーを始めて四半世紀を迎えた記念すべき今年、予期せぬ朗報がありました。それは日経アジア賞文化賞受賞の知らせでした。音楽界での受賞は初めての快挙で、AYOにとってはまさに青天の霹靂でした。

AYOは、文部科学省、各自治体をはじめ、各助成団体、協賛企業、聴衆の皆さまがたにご支援とご協力を賜りつつ、今日を迎えることができました。感謝！感謝！のひと言以外に言葉がありません。特に日本香港協会の皆さまには、各地でのコンサート開催をさせていただく都度、チケット購入のご協力を賜り、この紙上を借りて厚く御礼を申しあげる次第です。

さて、AYOは毎年アジア各国からメンバーを募り、厳しいオーディションを経て選ばれた17歳から27歳までの若き音楽家で結成されるオーケストラです。音楽を通じてアジアの地域を結び付け、アジアの優れた才能を開花させるという目的で1987年に芸術監督兼指揮者のリチャード・パンチャスと故ユーディー・メニューイン（指揮者・名ヴァイオリニスト）とにより創立され、1990年よりツアーを実施しています。

オーディションは、今年も日本、韓国、中国、香港、台湾、ベトナム、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポールで行われ、10倍近い倍率をくぐり抜けた104名が選ばれました。日本でのオーディションは、3月に東京と大阪で行われ14名が選ばれました。

コンサートツアー25周年を迎えた今年は、AYOのリチャード・パンチャスと首席指揮者のジェームス・ジャッドが指揮台に立ちました。

【プログラムA】指揮者：リチャード・パンチャス（芸術監督兼指揮者）、曲目：ベートーヴェン：「エグモント」作品84序曲、ハイドン：チェロ協奏曲第2番ニ長調、ベートーヴェン：交響曲第9番ニ短調作品125「合唱」

【プログラムB】首席指揮者：ジェームス・ジャッド、曲目：J.S.バッハ（ストコフスキー編）：トッカータとフーガニ短調、ショスタコービッチ：チェロ協奏曲第1番変ホ長調作品107、マーラー：交響曲第4番ト短調

AYOはコンサートツアーに出発する前の3週間ほどリハーサルキャンプを行います。そこで徹底したマン・ツー・マンによるオーケストラ指導とツアー用曲目のリハーサルが行われます。毎日7時間にもおよぶリハーサルが連日実施されました。早朝から自主トレーニングに励む奏者も多く、曲目に対する探究心も旺盛で真剣そのもので、毎年のことですが感動そのものです。

AYOコンサートツアーは上海（8月8日、9日）をスタートに北京、天津、香港、台北、嘉義、大阪を経て、東京となりました。

ファイナルコンサートは東京のオペラシティコンサートホール。当日の8月29日は晴天にも恵まれ、AYOのコンサートツアーでは初めてチケットもソールド・アウトした満員の聴衆で盛り上がりました。日中関係者でホールは溢れ、両国の友好・親善は一層深まり、感慨深い交流が見受けられました。AYOの精神は時代が変わっても永遠に続くものと確信しています。また来年も皆さまコンサートにお出かけくださいますようお願いします。

AYO2015のステージ風景

# はい、こちらは「日本シンガポール協会」です！

日本シンガポール協会　事務局

日本シンガポール協会は1971年の設立以来、日本とシンガポールとの経済、文化等の諸分野における交流及び協力を推進するための活動をボランティア・ベースで行っています。

日本香港協会様との交流のきっかけは、10年ほど前の両協会の幹部が、現役ビジネスマン時代の同期だったことが発端でした。香港に駐在している方は、シンガポールに出張し、また逆のパターンも頻繁だったことから、互いの経済や文化・歴史的な背景を理解していることがスムーズな交流の一助となりました。

日本香港協会の会員の皆さまには、当協会の会員と同額で各種イベントにご参加いただけます。ゴルフコンペ、シンガポール大使館でのパーティ、講演会など一年を通じて開催しています。お気軽に、当協会のイベントにお出かけください。シンガポールやアジア全般に関してのお問合せやご相談も、随時受け付けております。

両協会の懇親会（10月1日）

**関西日本香港協会　事務局**

## 香港ビジネスセミナー開催 ～新たなる香港ビジネスへの挑戦～

7月30日にマイドームおおさかに於いて「新たなる香港ビジネスへの挑戦」をテーマに香港ビジネスセミナーを開催し、80名が参加しました。アジアのビジネス拠点としての香港の役割、マーケットとしての存在感と魅力が高まっている状況の中、香港での新事業に挑戦して成功された博多とんこつラーメン「一蘭」を経営する株式会社一蘭代表取締役吉冨学氏に「一寸法師戦略～弱者が強者に勝つ！商売の秘訣～」と題した講演をお願いしました。吉冨社長は昨年12月に香港で開催された香港フォーラムで関連事業に成功した経営者に贈られるSuccess Story Awardを受賞しておられます。

吉冨社長は大学在学中の20歳より商売を始められ、1993年5月に会社設立してとんこつラーメン1号店を博多にオープン、現在日本国内に約50店舗展開中で2013年7月に香港で海外1号店をオープンされました。複数で会食するのが一般的な香港に「ひとり食い」という新しいスタイルを持ち込み、24時間営業にもかかわらずオープン当初から行列が途切れず一蘭の成功は香港で大きな話題となりました。この成功をきっかけにして米国ニューヨークにも出店されます。

吉冨社長独自の考え抜かれた経営哲学を詳しく説明され、新たな商品価値を創造する差別化、消費者の心理に訴える表現力の工夫、社員に愛情をもって接することで生まれる経営の一体化などの重要性を強調されました。このグローバル化の時代に思い切って香港事業に挑戦され、現地消費者の心を掴んで成功された秘訣や経営のノウハウを学んだ大変有意義なセミナーになりました。ご多忙の中、博多からご出張賜り講演していただいた吉冨社長に感謝申し上げます。

関西香港ビジネスセミナー講師の株式会社一蘭吉冨学社長

## 香港中秋節パーティー開催

当協会では関西と香港の経済・文化交流を目的に年間様々なイベントや行事を開催しておりますが、会員相互の懇親を目的としたネットワーキング・イベント「香港中秋節パーティー」を去る9月25日にヒルトン大阪で開催し66名の参加者がパーティーを楽しみました。

パーティーは木全千裕会長の開会挨拶で始まり、戒田真幸事務局長の音頭で乾杯した後、お酒飲み放題のパーティー特別料理、新進気鋭のシンガーソングライターで最近東京でもライブを実施した信政誠氏のライブ、協賛企業から提供された景品が39名に当たるラッキードローを楽しみました。特別賞のキャセイパシフィック航空提供香港行きペア航空券は木全会長がクジを引かれ、会場は最高に盛り上がりました。最後に田中義次副会長の閉会の挨拶で楽しかったパーティーを閉会しました。

関西香港中秋節パーティーでのラッキードロー特別賞授与

## 法人会員交流会開催

当協会では法人会員、協会役員、香港貿易発展局職員との交流懇親と香港・中国ビジネスへの理解を深める目的で法人会員交流会を年二回開催しており、去る7月28日に当協会会員大阪キャッスルホテル内にある中国料理「錦城閣」で第一回法人会員交流会を開催しました。地下鉄天満橋駅真上にあるホテル内のレストランの個室の窓から臨む大川の夜景を眺め、13名の参加者が美味しい中華料理をいただきながら大いに歓談し会食を楽しみました。

会食に先立って、香港貿易発展局の海外拠点長会議出席のため約1週間香港に出張された大阪事務所長の伊東正裕氏に香港出張報告をお願いしました。伊東氏は、香港で今一番の話題は中国の「一帯一路」構想でしたと述べられ、資料に基づき「一帯一路」構想の系譜、「アジアフロンティア市場」の現状と未来、「シルクロード経済圏」と中国が設立したアジアインフラ投資銀行（AIIB）などに関して解説し、今後は(1)インフラ建設関連事業、(2)交通・輸送関連産業、(3)石油・天然ガスなどの分野で大きな新規事業機会が見込まれると述べられました。

また、香港貿易発展局が推進している“HKTDC Small Order Zone”電子商取引を活用した中小企業の国際化戦略についても解説され、協会会員にとって有効な新規ビジネス拡大のチャンネルになり得ることがよく理解できました。

交流会に参加された大阪キャッスルホテルの清水社長が今年は訪日外国人客の増加によりホテル営業が盛況であるとの報告をされ、日本政府観光局の訪日外客数統計資料によると今年1～5月の訪日外国人数は753万人（伸率＋44.9%）で、中国からの来日が171万人（＋105.7%）と大幅に増加したが、 香港からの来日も55万人（＋61.7%）と大きく増えているのは喜ばしいと述べられました。他方、大幅な円安の影響もあり大阪から香港に行く人数が伸びず香港政府観光局大阪事務所が今年の春に閉鎖されたことが残念に思われました。

中京日本香港協会　事務局長　佐藤　亮一

## 秋季行事3題

### ◆ワールド・コラボ・フェスタ2015

第10回、年1回恒例の世界異業種間交流会が開催され県国際交流協会の要請もあり中京日本香港協会も毎回出展、10月24日(土)～25日(日)2日間に亘り名古屋市栄もちのき広場（オアシス21）を会場として16か国80ブースのなか、香港及び日本のパンフレット配布によりPR当協会入会ご案内、広東語教室紹介など促進も兼ね開催した。

本部からの報告では、昨年48,000人の参加を得、本年は56,000人の入場者を得、年々関心度が高くなっていると思われるが一方で物販目的のみの出展も散見される。県、市とも秋季の大イベントであり観光面でもその意を受け香港政府観光局、キャセイパシフィック航空ほか協力をいただき「香港の魅力」として当協会も国際化の一助になればと上記目的と共に参加している。2日間での質問の多くは「政情」「環境」「貧困」など東南アジアを巡る諸問題など関心の深さが感ぜられる。全体として若年層では、音楽、映画に観る娯楽及び食文化への興味が、また高年齢層、ご夫婦など過去に香港を旅した話題多く今後中京地区にも多い中小企業経営者向けのビジネス・貿易業等協会としての資料もPRしてゆく作業も繰り入れてゆく必要を感じた。

### ◆中京バウヒニア会

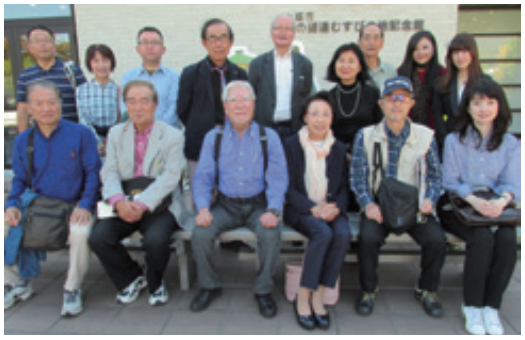
第4回中京バウヒニアレディース会を10月21日打合わせ実施、演者都合にて開催は11月6日。テーマは「女性のための太極拳」、会場に東海東京証券プレミアサロン（法人理事）ご提供頂き予定参加者20名にて開催する。

### ◆奥の細道芭蕉句碑巡り

会員親睦会として全行程2,400㎞におよぶ「奥の細道」を大垣愛宕神社～船町まで2.2㎞をウォーキングすることにより文化遺産に触れる秋の親睦会を催した。

27名の出席者のもと好天にも恵まれた。松尾芭蕉

ワールド・コラボ・フェスタ2015



奥の細道芭蕉句碑巡り

が貞享元（1684）年～元禄4（1691）年にかけ元々三重県桑名の出身ながら、東海3県特に美濃路の当時豊かな自然そのものが俳句に適した土壌その中で岐阜大垣を奥の細道の「むすびの地」に選ぶなど4度も訪れた理由が、弟子たちが俳句の作品「水」に関する作多く湧水が至る処に見られる「水の都」が由縁とするのが理解できる。特に秋季の大垣が美濃俳壇として言われる物件が大垣城近辺散策すると見いだされる。

今回は、中京日本香港協会法人会員の大垣共立銀行の協力を頂き興味ある文化を観る1日となった。

日本香港協会全国連合会

〒102-0083　東京都千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局　東京事務所内
電話（03）5210-5901　FAX（03）5210-5860

NPO法人日本香港協会（東京）
〒102-0083　千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内　電話（03）5210-5870

関西日本香港協会
〒541-0052　大阪市中央区安土町2-3-13　大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内　電話（06）4705-7030

中京日本香港協会
〒460-0003　名古屋市中区錦2-11-27　TH錦ビル8階
株式会社喜斎内　電話（050）3620-2517

九州日本香港協会
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前2丁目9-28　会議所ビル1階
地域企業連合会　九州連携機構 内　電話（092）451-8610

北海道日本香港協会
〒060-8661　札幌市中央区大通西3-7
北洋銀行国際部内　電話（011）261-4288

宮城日本香港協会
〒980-8520　仙台市青葉区一番町3-7-23　明治安田生命仙台一番町ビル3階
（株）JTB東北本社　営業部内　電話（022）212-5550

沖縄日本香港協会
〒900-0033　那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内　電話（098）868-3758

広島日本香港協会
〒730-0052　広島市中区千田町3-7-47　広島県情報プラザ3階
（公財）ひろしま産業振興機構　国際ビジネス支援センター内
電話（082）248-1400

新潟日本香港協会
〒951-8052　新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地
愛宕商事株式会社内　電話（025）365-0001

URL　http://www.jhks.gr.jp

**九州日本香港協会　事務局**

## 九州日本香港協会　講演会・交流会開催

九州日本香港協会では9月28日(月)にTHE VILLAS（ザ ヴィラズ）福岡にて講演会・会員交流会を開催しました。今年の交流会では会員交流をはじめ、九州日本香港協会の活動PR及び会員拡大を目的として外部団体の方々にも声をかけまして、72名の方々が参加しました。

講演会に先立ち、当会の会長である九州旅客鉄道株式会社相談役石原進氏が「本日は、去年香港フォーラムで素晴らしい海外進出モデルとしてSuccess Story Awardを受賞した吉冨社長にご講演頂きます。九州日本香港協会は毎年会員が増加しており、まだ会員になっていない方がいれば是非とも会員になって頂き、一緒により良い会にしていきたい」と開会挨拶をされ、在香港日本国総領事館大使・総領事松田邦紀氏より「香港と九州との関係で素晴らしい点は、九州7県が九州を前面に出して、観光誘致、農水産物などの分野で協力している点である。さらに九州が香港をゲートウェイとして世界と関係を深くしていくために、自分も九州の皆様の代理として香港で頑張りたい」との来賓挨拶を頂きました。

講演では株式会社一蘭代表取締役社長吉冨学氏より「一寸法師戦略～弱者が強者に勝つ！商売の秘訣～」と題して「デジタル革命の時代では早い情報速度、螺旋的発展の法則、Monetary経済 とVoluntary経済の融合（良い企業が残る）などの特徴がある。商売に大事なのは記憶に粘りつくイメージを作るブランド力であり、そのブランド力には独自性、専門性、物語が必要になる。経営者は従業員のことを褒めて認めて感謝することが大事。世の中の全ての出来事は人の心で行なう。人の心ほど強硬なものはないが、人の心ほどはかないものもない。己の心をコントロールして他人の心を大切にし、全ての欲求を愛に、つまり、感謝の心が最も重要なことだと信じて生きている」など、大変興味深い講話を頂きました。

講演に引き続き交流会が行われ、当会の名誉顧問である西研グラフィックス株式会社代表取締役社長並田正一氏より「この春、香港で夜11時30分ぐらいにCauseway Bayの一蘭に行ったら沢山の人がずらっと並んでいた。わずか700万人の人口の都市の香港で2号店を出すことはすごいことだし、香港が中国本土・東南アジアのゲートウェイであることを考えると、これからより大きく成功すると思う」と乾杯のご発声をいただきました。

講演会開会挨拶　会長石原進氏

歓談の際には、参加者間で香港と九州の歴史的な関わりや現在の香港事情について活発に語り合い、大変盛り上がりました。閉会の挨拶として、当協会の副会長である株式会社エフエム福岡代表取締役社長佐々木克氏より「再び香港フォーラムへの参加のお願いと今後もこのような会員間の情報交換や交流の場を頻繁に行っていきたい」と、更なる会の発展に期待を込めた言葉を頂き、盛会裏に終えることが出来ました。

九州日本香港協会では会員の要望にこたえて今後も多様な形態の会員交流会や情報交換会の開催等を通じて、より親密な協会になるよう努力していきたいと存じます。どうぞよろしくお願いします。

交流会乾杯ご発声　名誉顧問並田正一氏

講演会の様子

**北海道日本香港協会　事務局**

## 「香港金融物流セミナーin札幌」を開催

平成27年10月30日、北洋大通センタービル4階セミナーホールにおいて、香港貿易発展局の主催、北海道日本香港協会と北洋銀行の共催で「香港金融物流セミナーin札幌」が開催されました。

アジアの金融センターとして様々な金融サービス機能を有する香港は、世界に目を向ける日本企業にとって、より重要な拠点として考えられています。物流に関しても、日本企業の海外展開に注目が集まる昨今、アジアの国際物流拠点としての香港は、様々な取組を行っています。

そこで今回のセミナーでは、金融編、物流編の二部構成とし、両分野で重要な役割を果たす香港について、それぞれの専門家からご講演をいただきました。会場には、49名の方々のご参加をいただき、道内企業や関係機関の皆さまの関心の高さが伺えました。

セミナー冒頭では、香港貿易発展局東京事務所次長兼マーケティングマネージャーの門田弘蔵氏が開会挨拶で、北海道スイーツの香港進出を例に、北海道ブランドの人気・知名度の高さから、香港は道内企業にとって、多くのビジネスの可能性を有する地域であると紹介されました。

続いて、日本銀行札幌支店長の杉本芳浩氏から来賓挨拶をいただきました。杉本支店長は、伸び悩む国内市場・消費人口について、北海道はインバウンド観光客によりカバーすることが出来ており、今後の道内経済活性化の糸口となり得ると述べられました。

セミナー第一部金融編は、㈱北洋銀行取締役会長（北海道日本香港協会会長）の横内龍三氏の基調講演から始まりました。横内会長からは、アベノミクス後の日本経済と地方経済の現状を分析され、地方創生や、TPPを背景とした新しいグローバルマーケットの拡大の重要性を説明されました。また日本企業の海外戦略の中で、中国が今後より重要な地位を占めていくとともに、その入り口としての香港にも期待が集まるものと考えており、今年、北洋銀行が香港の東亜銀行と提携を開始した旨、ご紹介がありました。

来賓ご挨拶をされる日本銀行札幌支店長杉本芳浩氏

香港を取り巻く世界経済の観点からは、㈱三菱東京UFJ銀行シニアマーケットエコノミストの鈴木敏之氏から、「世界経済に低成長の試練」と題して講演をいただきました。鈴木氏は、主要各国の経済動向の分析、この世界経済の低成長に潜む危機感について鋭い見解を論じられ、参加者の方々は熱心に聞き入っていました。

続いて、香港の金融市場に焦点を絞った講演を「香港金融市場と日本企業にとっての香港市場の活用」として㈱フィナンテック代表取締役社長の甲斐昌樹氏より解説いただきました。香港が「アジア経済のハブ」として持つ特徴・機能を紹介された上で、香港進出における資金調達のポイントや、地域統括会社（RHQ）の活用についてお話しいただきました。

セミナー第二部物流編では、国土交通省北海道開発局港湾空港部港湾計画課長の中島靖氏より来賓挨拶をいただきました。中島氏からは、同局とヤマト運輸が事務局として取り組む北海道国際輸送プラットホーム（通称：HOPサービス。香港、台湾、シンガポール、マレーシアへの冷蔵・冷凍による小口航空輸送サービス等を展開）について、特に香港向けがニーズ高く、北海道産食品の輸出にとって重要な地域であるとし、さらに輸出促進に取り組むためには、北海道側が売りたい商品よりも、海外側が買いたいと思う商品を調査するといったマーケティングにも注力していく必要があると述べられました。

物流編の講演では、㈱ANA CARGOソリューション事業部ソリューション企画部部長の谷村昌樹氏から「沖縄ハブを活用した国際物流について」として、同社の取り組みをご紹介いただきました。アジア圏主要各都市の空港に朝早い時間帯に到着し、スムーズな通関につなげることが出来る那覇空港からの物流スキームが、今後の日本産食品輸出の競争力を高めていくと、具体的な情報提供を行ってくださいました。

最後に、香港貿易発展局アシスタント・マーケティング・マネージャーの松本勤氏から、「アジア金融フォーラム」と「アジア物流海運会議」についてご紹介、ご参加の呼びかけを行っていただきました。

今回のセミナーは、金融と物流にそれぞれ特化し、普段なかなかお話を聞く機会のない専門家、講師の方々による内容となり、協会会員並びに道内企業にとって非常に貴重な情報収集の場となりました。これを機に、香港貿易発展局やその他支援機関と連携しながら、北海道企業の具体的な香港ビジネス支援につなげてまいりたいと思います。

多くの参加者が集まり、熱心に聴講いただきました

# MIYAGI

宮城日本香港協会

宮城日本香港協会事務局　武田　功

## 女性部会が研修会「五所川原立佞武多夏祭り見学」を開催

今年の女性部会移動研修会は、会員18名の参加で、8月5日(水)～6日(木)に青森県五所川原「立佞武多（たちねぷた)」を見学しました。高さ23メートル、重さ19トンの威容が奥津軽を練り歩きます。街のあちこちに夜店が立ち、宵の空に笛や太鼓の音が響き渡ります。

桟敷席の目の前を「ヤッテマレ」の掛け声でゆっくりと現れる立佞武多を見て、感激のあまり抱き合う同級生2人、とても楽しみにしていた研修でした。幻想的で感動を呼んだ夏祭り、市民の心意気が感じられた「街・人・心」が躍動する夏祭りでした。会員相互の親睦が図られ、参加者からは「とってもよかったわ。来年も又お願いしますね」などの声が上がったほどでした。

「五所川原の立佞武多」とってもよかったわ

## 「アジア・フォーラム2015 in バンコク」に参加

7月27日(月)～28日(火)タイ・バンコクで開催された「アジア・フォーラム2015 in バンコク」に、油川洋理事、伊藤秀雄理事、伊藤康秀氏が参加しました。セミナー、ミーティング、そしてディナーレセプションと、アジア各国の代表と懇親を深めたほか、ジェトロバンコク事務所、ANAバンコク支店、時事通信社バンコク支局などを訪問しバンコクの経済事情を視察、日本・宮城との貿易の可能性について勉強してきました。

アジア・フォーラムで参加者と記念の一枚に

## 「2015広東語教室」を開講

7月21日(火)から2015年広東語教室が始まりました。先生は昨年度と同じ荒川フェニー瑞玲さん、当協会のメンバーで、香港文化教室の講師も務めていただいています。教科書は昨年も使用した「はじめての広東語」です。また、先生の推薦で、「旅の指さし会話帳　香港・広東語」も副読本として使用することになりました。先生の香港時代の思い出話などもあり、香港に行った気分で楽しい時間を過ごすことができます。

荒川先生（中央）と受講生

## 「FOOD EXPO 2015・東日本美味しい魅力展」に宮城県ブースを出展

8月13日(木)～17日(月)と香港最大級の総合食品見本市「FOOD EXPO 2015」において「東日本美味しい魅力展」(外務省主催）が開催されました。被災地を含む東北、北関東地方の魅力や安全性等の正確な情報発信とこれらの地域の魅力の体感からの東日本の知名度、ブランド力を高めるためのものでした。宮城ブースでは、ずんだ餅の試食提供や観光パンフレットの配布などを行い、香港の皆様に宮城の“食”と“観光”のPRを行ったところ、大変な好評をいただきました。

大盛況の宮城ブース

**沖縄日本香港協会　事務局**

## 沖縄日本香港協会　総会開催

平成27年9月15日、沖縄日本香港協会の総会がクラウンプラザホテル沖縄ハーバービューにて開催された。平成26年度の事業報告および収支決算、平成27年度事業計画および収支予算が承認された。平成26年度、沖縄日本香港協会は香港貿易発展局と沖縄県のMOU締結を支援すると共に、香港における調印式に際し香港・マカオの経済視察を実施、香港フードエキスポを視察するなど沖縄県と香港の経済交流と相互理解を推進した。平成27年度も香港フォーラムの参加や春節経済セミナーの開催、沖縄大交易会の開催協力等を実施していく。

沖縄日本香港協会　平成27年度総会

## 香港経済貿易代表部首席代表サリー・ウォン氏昼食懇談会開催

沖縄日本香港協会では、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表サリー・ウォン氏の来県に際し、昼食懇談会を開催した。

サリー・ウォン首席代表には「香港　日本企業にとってのチャンスとメリット」と題してご講演を頂いた。

香港の特徴として、以下のことを挙げられた。

○「一国二制度の下、高度の自治権を保有すること
○独立した司法に支えられたコモンロー制度があること
○独自の通貨、関税制度、出入国管理制度があること

また香港のビジネス拠点としての優位性として挙げられたのは以下の点である。

○低率で簡素な税制
○高度な知的財産権の保護
○法務・会計など高品質のビジネスサービスの提供
○香港における起業家支援

中国本土との経済貿易緊密化協定（CEPA）の締結により、香港を拠点として中国本土へのビジネス進出のメリットが更に享受可能となっている。サリー・ウォン首席代表は「香港はこれまでと変わらず自由で安全、そして皆様を温かく迎える街です。沖縄の企業がその規模に拘らず、香港の戦略的立地をはじめとする多くのメリットを活用しビジネスチャンスをつかむことを心より歓迎します」と締めくくった。

沖縄県と香港の近年の関係では、那覇空港のANA貨物ハブの取扱量の増加や香港貿易発展局と沖縄県のMOU締結、沖縄・香港間が週30便以上運航されるなど、今後もより緊密な関係が進むことが期待される。

サリー・ウォン首席代表

昼食懇談会の様子

# HIROSHIMA



広島日本香港協会事務局　大久保　忠之

## 平成27年度通常総会・交流会

広島日本香港協会では、去る7月9日(木)に平成27年度通常総会・交流会を開催しました。出席者は27名（委任状31会員提出）で、ゲストとして、香港貿易発展局大阪事務所の田中洋三次長にご出席いただきました。冒頭、当協会の深山会長より「昨年度は初めて香港から弁護士をお招きし『法務相談会』を開催するとともに、5年ぶりに呉地区、尾道地区で海外販路初心者を対象とした『初めての海外取引セミナー＆相談会』を開催しました。また、今年8月16日からはドラゴン航空が定期便を7年ぶりに復活させると聞いております（注：予定どおり就航済み)。今年度も香港や中国本土への事業展開を検討する会員企業の皆様には、香港貿易発展局の支援による、ビジネス・アドバイザリーサービスやビジネス・マッチングなどの会員支援サービスの積極的な活用や、当協会においても積極的に事業展開したいので多数の参加をお願いします」との挨拶がありました。

続いて田中次長より、香港貿易発展局の電子商取引を活用した中小企業の国際化戦略等について資料による説明と映像により各種展示会の様子、日本から香港へ農産物を輸出する「クールエキスポ」、またBtoCによるブックフェアに100万人の来場者があったことなど香港最新情報の提供を行っていただきました。そのなかで「同局の支援事業の特徴として、輸出輸入の双方向のビジネス支援を行っていること」「3年前から電子商取引の分野で同局のホームページのプラットホームに出店することができるシステムを開発、食品分野の出店はできないが、約5万円の費用でリスクの少ない取引が可能になったこと」などの紹介がありました。また、ご自身の豊富な経験や知識を織り交ぜながらの香港における近年の市場概況の説明には、配布資料以上の多くの情報が盛り込まれており、会場の皆様も熱心に耳を傾けていました。

「平成26年度事業報告及び決算報告」、「平成27年度事業計画案及び予算案」の2つの議案は、満場一致で可決・承認され、総会は滞りなく終了しました。引き続いて開催した交流会は、田中次長にも参加いただき、大変和やかな雰囲気での交流となりました。冒頭では、当協会の光本副会長より「県内各地でセミナーや相談会などの開催を通じて、少しでも多くの企業に香港また中国本土への販路開拓等について興味を持ってもらいたい」と挨拶がありました。歓談の途中には深山会長より、出席の皆様へ協会として「香港フォーラム2015」へ多数の参加となるよう呼び掛けられ、会の最後では曽川監事より「今年度も、みなさん本協会事業に積極的に参加しましょう」と締めの挨拶があり、盛会裏に閉会となりました。

なお、この場をお借りして、ご多忙の中、当協会通常総会にご参加いただき有益なご講演をいただいた香港貿易発展局大阪事務所の田中次長には、改めて厚く御礼申し上げます。

今年度におきましても、当協会事務局として香港とのビジネスを中心とした講演会やセミナー等を積極的に企画・実施していく事により、協会会員の中から1社でも多く、香港貿易発展局の各種サービスを活用され、香港をパートナーとした海外での事業展開がなされることを期待しております。

深山会長あいさつ

通常総会の様子

# NIGATA



新潟日本香港協会会員　日本アニメ・マンガ専門学校教務部長　内田　昌幸

## 香港ブックフェア2015　出展レポート

2015年7月15日～21日に香港コンベンション＆エキシビションセンターにて開催された「第26回香港ブックフェア」ジャパン・パビリオンに、私ども日本アニメ・マンガ専門学校と新潟市の共同出展という形で出展させて頂きました。毎年100万人が来場するといわれているビッグイベントですが、フェア中は、当ブースにも多くの方にお越しいただきました。その様子をこの場を借りてお伝えしたいと思います。

まずは、簡単にマンガ王国新潟と日本アニメ・マンガ専門学校についてご紹介させて頂きたいと思います。

「ドカベン」の水島新司、「うる星やつら」「犬夜叉」の高橋留美子、「天才バカボン」の赤塚不二夫、「パタリロ」の魔夜峰央など大御所のマンガ家をはじめ、実写映画化され国内外でも話題になった「DEATH NOTE」「バクマン。」の小畑健、「るろうに剣心」の和月伸宏、香港でも人気のある「頭文字D」のしげの秀一など、非常に多くの有名マンガ家を輩出しているマンガ王国新潟です。

また、新潟市は「マンガ・アニメを活用したまちづくり構想」を2012年3月に策定し、今後さらにマンガ都市としての魅力を高め、全国にアピールするとともに、マンガ・アニメ関連産業の持続的発展を支援し、市の活性化に力を入れております。その新潟市の中心、「古町」に私どもの日本アニメ・マンガ専門学校がございます。当校は2000年4月に開校し、プロマンガ家デビュー累計89名、連載マンガ家27名を輩出し、アニメ・マンガ業界の発展とアニメ・マンガ文化の世界発信に努めております。

今回は、新潟市と共に「マンガ王国新潟」を世界にPRするために出展させて頂きました。新潟市のブースは、新潟出身のマンガ家作品のマンガやポスター、グッズ等を展示し、新潟市PRオリジナルアニメーションの上映や、新潟出身の演歌歌手「小林幸子」と新潟ご当地アイドル「Negicco（ねぎっこ）」による、新潟紹介プロモーションムービーの上映など、新潟の良いところを沢山紹介させて頂きました。日本語のマンガにもかかわらず、熱心に読んでいる方や、オリジナルアニメーションを楽しそうに観ている方など、とても楽しんでもらえたと思います。また、香港での新潟の日本酒とコシヒカリの認知度が非常に高く、ここでは販売してもらえないのか？という問い合わせを多く頂きました。

日本アニメ・マンガ専門学校在校生・卒業生のオリジナル作品展示

当校、日本アニメ・マンガ専門学校のブースでは、在校生・卒業生のマンガ・イラスト作品やオリジナルグッズの展示、在校生・卒業生のデビュー雑誌やマンガの展示、マンガ制作つけペン体験コーナー、在校生・卒業生のオリジナルグッズの販売を行いました。昨年のブックフェアに引き続き、今回で2回目の出展となります。前回は、展示していた在校生・卒業生の作品やオリジナルグッズを販売して欲しいという問い合わせが非常に多く、展示品なので販売出来ないと伝えるととても残念そうにブースを後にする方が多くいらっしゃいました。今回は昨年の反省を踏まえオリジナルグッズを大量に制作し販売しました。主に小学生から中学生くらいの方にポストカードや缶バッジが人気で、日本では「カッコイイ・カワイイ」キャラクターが人気ですが、香港では「萌えキャラ」がとても人気がありました。中には50代・60代の方にも購入いただき、その場で鞄や洋服に付けて嬉しそうにしている姿が印象的でした。

一番人気があり、連日長蛇の列が出来ていたのが「マンガ制作つけペン体験」です。プロがマンガを制作する際に使用する「つけペン」という道具を使って、実際のマンガ原稿用紙にマンガを描く体験です。マンガ業界もデジタル化が進んでおり、液晶タブレットによるデジタルマンガ制作体験の用意もしていったのですが、つけペンと墨汁で原稿用紙に直接描くアナログの体験の方がとても人気でした。

小さなお子様から年配の方まで、幅広い方々が熱心に取り組んでいました。主に小さなお子様が多く、お母様と一緒になって1ページ仕上げるまで筆を休めることなく、黙々と描いていました。ずっと並んでいたのですが、なかなか自分の順番が回ってこなくて泣き出してしまう女の子や、フェア期間中に毎日来てくださり、マンガを描いている方もいらっしゃいました。

年齢を問わず、体験コーナーでマンガを描いていた方々の殆どが、日本語を話せる人でした。どこで勉強したのかと聞くと、日本のアニメやマンガで勉強したそうです。日本の文化である、アニメ・マンガで国際交流に貢献していることを非常に嬉しく思います。

これからも、日本のアニメ・マンガを通して日本の良さを海外に伝え、国際交流に貢献していきたいと思います。この度は、貴重な機会を頂きありがとうございました。

親子でマンガ原稿を仕上げました。とても上手です。

COLLAGE

# MODERN *fine* DINING

## ダイナミックな景観と愉しむコンテンポラリーなお料理

選りすぐりの食材と洗練されたシェフ独自のプレゼンテーション
フレンチとヨーロピアンスタイルが見事に調和したダイニング
ミシュランで星を獲得しているシェフ・ド・キュイジーヌ前田慎也の
革新的なアプローチをご堪能ください

## Contemporary cuisine with sweeping city views

Experience Michelin-starred Chef de Cuisine Shinya Maeda's innovative approach to dining with the very best of French and European culinary styles, ingredients and unique presentation.

CONRAD TOKYO

*the luxury of being yourself*

conradtokyo.co.jp/collage
tokyoinfo@conradhotels.com
ご予約 / Reservations: 03-6388-8745